

① 題材 「荒城の月」 (滝廉太郎作曲)

② 指導目標

- ア、曲趣を生かした表情豊かな美しい歌い方を工夫させる。……………19-4, 7
- イ、2小節のフレーズをレガートな歌い方で表現させる。……………8, 19-3
- ウ、共鳴の工夫をさせ、低音域の声のだし方を工夫させる。……………17

③ 教材 「荒城の月」(東京音楽学校編・中学唱歌)

- イ短調(原曲はロ短調) $\frac{4}{4}$ 拍子……………2
- A (a, a') B (b a') の二部形式……………12
- 全体として中・低音域で、2小節ごとの < > が多くみられる。……………8
- 9)……………4分音符の連続するリズムで、山型の旋律型が多く表れる。日本歌曲の旋律の美しさと情感を味わいながら、声楽的な声のコントロールを学ぶのに適した教材である。

④ 指導計画(2時間扱い)

第 1 次	第 2 次
旋律の視唱や歌詞の理解をさせ、発音や発声に気をつけて歌詞唱をさせる。	曲想を感じ取り、レガート唱で美しい表現を工夫させる。 ……………(表1)
第 1 時	第 2 時
(日本的な情感や味わい)……………13 ← 荒城の月 → ・情景の想像……………5 ・レガート唱法(発声法)……………15, 10 ・表現の工夫……………17 ・日本歌曲の鑑賞(赤とんぼ, 平城山)	

⑤ 学習の展開

(表3)

	目標	学習活動	指導上の留意点
第 1 次	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞の内容を理解させる。……………5 発音や発声に気をつけて歌詞唱させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞を朗読し、歌詞の表している情景を想像する。 音程を正しく、フレーズごとに視唱する。 <ul style="list-style-type: none"> 階名唱をする。 歌詞唱をする。 声楽的な声の持続に気をつけて歌う。……………14 	<ul style="list-style-type: none"> 声の大きさや発音に気を付けて詞を味わい生かして朗読させる。 低音域と中音域の共鳴をムラのないように気付けさせる。 呼吸の仕方を工夫させる。 正しい姿勢で歌わせる。……………17 フレーズのしまいの音(♪)を十分に伸ばさせる。……………9, 17 日本歌曲の旋律と伴奏という観点で注意して聴かせる。……………14 声楽的な声の持続として♪の多用している例として聴かせる。……………18
第 2 次	<ul style="list-style-type: none"> 表現の工夫をさせる。 日本のな情感を日本歌曲の鑑賞で味わわせる。……………15 	<ul style="list-style-type: none"> 曲想を付けて歌う <ul style="list-style-type: none"> 2小節1フレーズの < > に注意して歌う。……………8 曲の山を感じる。 関連教材のレコードを鑑賞する。……………15 <ul style="list-style-type: none"> 赤とんぼ・砂山を聴く(山田耕作) 平城山を聴く(平井康三郎)……………16 	<ul style="list-style-type: none"> 曲想を感じ取り、表現を工夫させる。……………14 レガート唱をさせる。……………17 指揮をするとき表情的なレガートの打ち方でやわらかな予備運動から曲趣を感じ取らせる。……………18

(「学習指導案」と「教材カード」の□の番号は同じものを指している。)

4. おわりに

これまで歌唱指導における教材研究の方法と教材開発の具体的な例として「教材カード」の活用について述べた。しかし、これはあくまでも指導の充実を目指すための方法の一つにすぎない。従って、それぞれの学校においては、児童の実態に応じて創意工夫をしながら歌唱指導の充実を図っていただきたいければ幸いである。

参考文献

- 小・中・高等学校(音楽科・芸術科)
- 学習指導要領・指導書・解説……………文部省
- 指導計画の作成と学習指導……………文部省
- 授業改革事典3(授業の実践)……………第一法規
- 子どもが生きる教科カリキュラムの設計